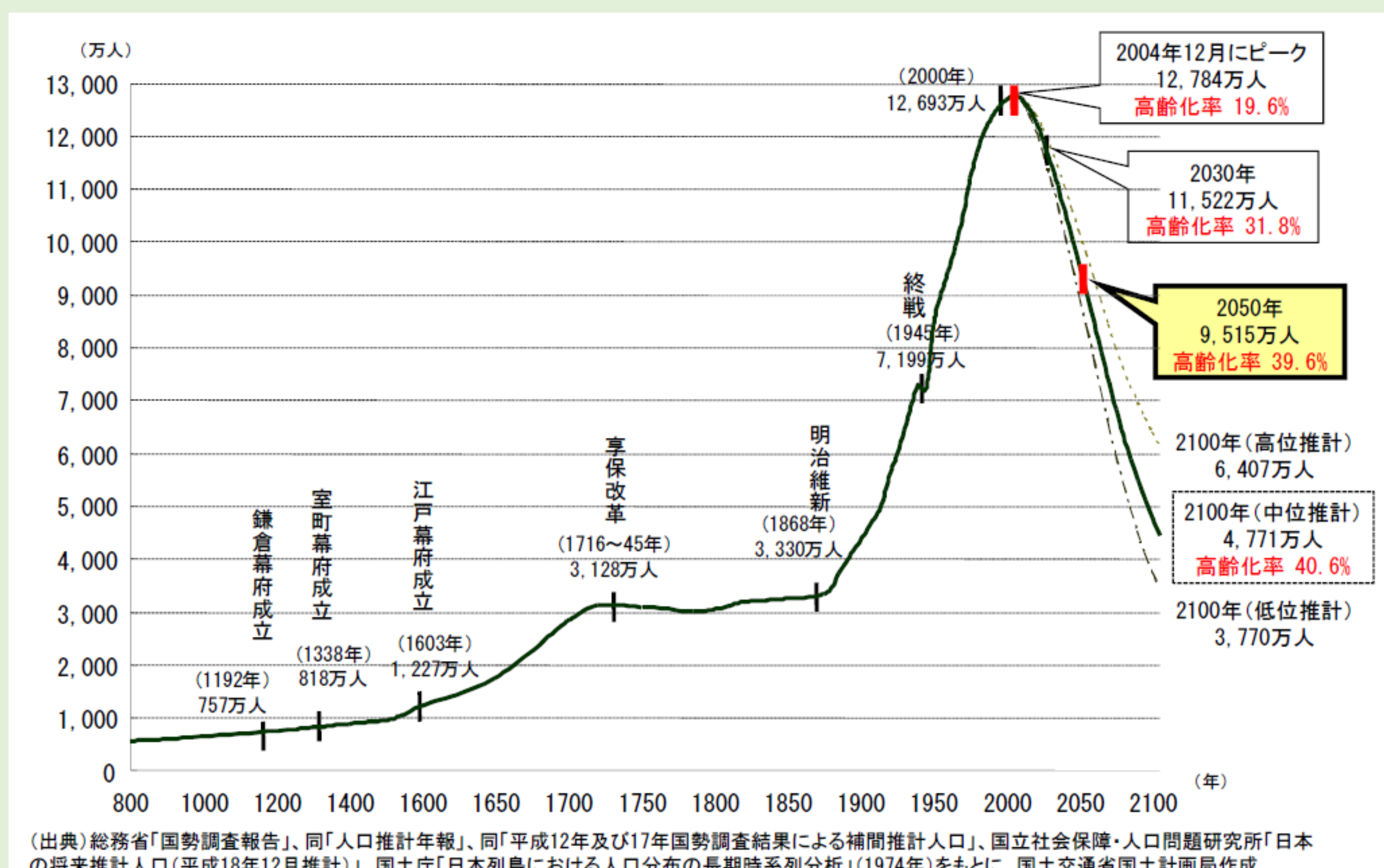
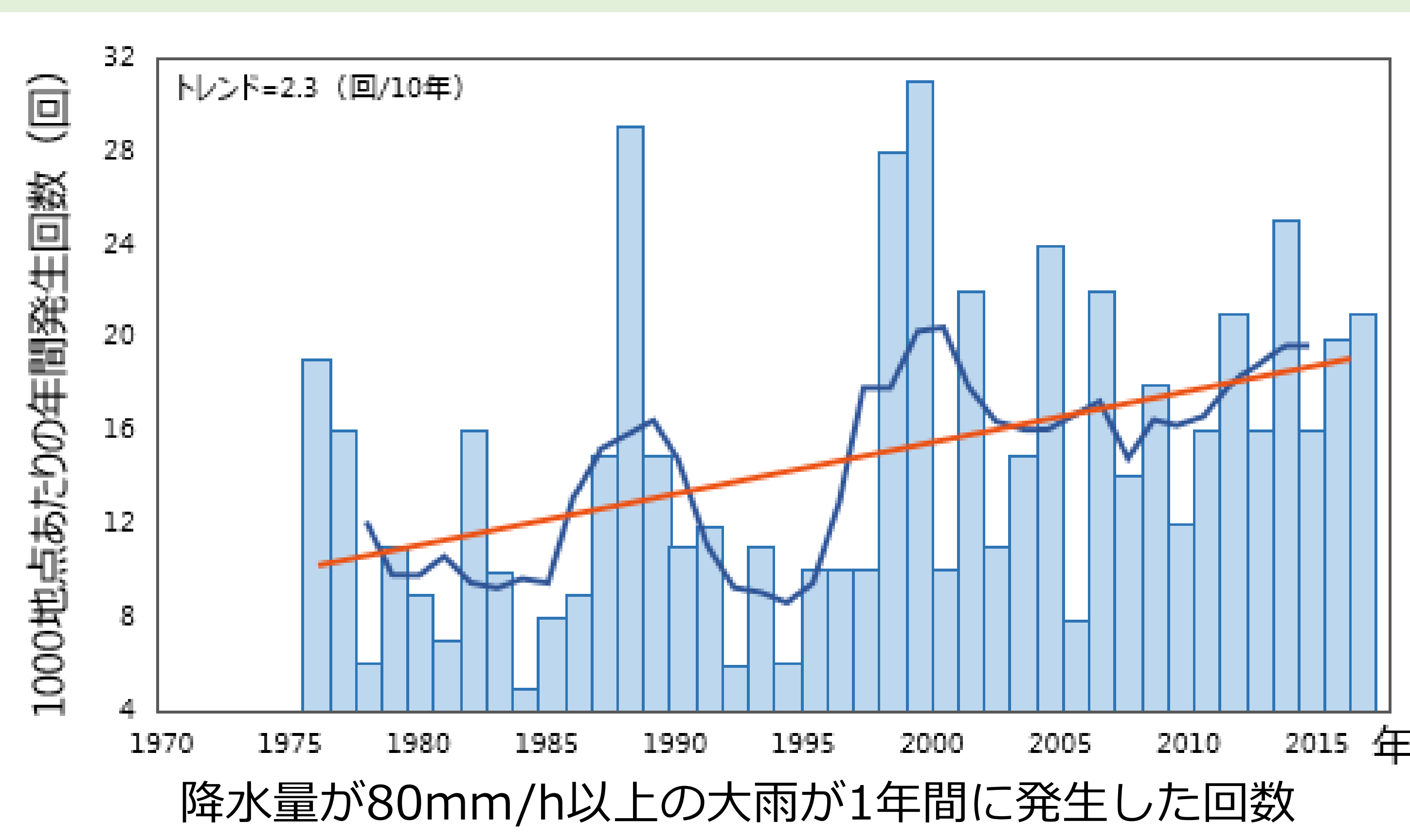


人口減少時代における気候変動適応としての生態系を活用した防災減災（Eco-DRR）

プロジェクトリーダー 吉田丈人(地球研・東京大学)
○研究員 黄エン恵(地球研) 研究員 山田由美(慶応大)



◎資料: 国土交通省国土企画局



◎資料: 気象庁

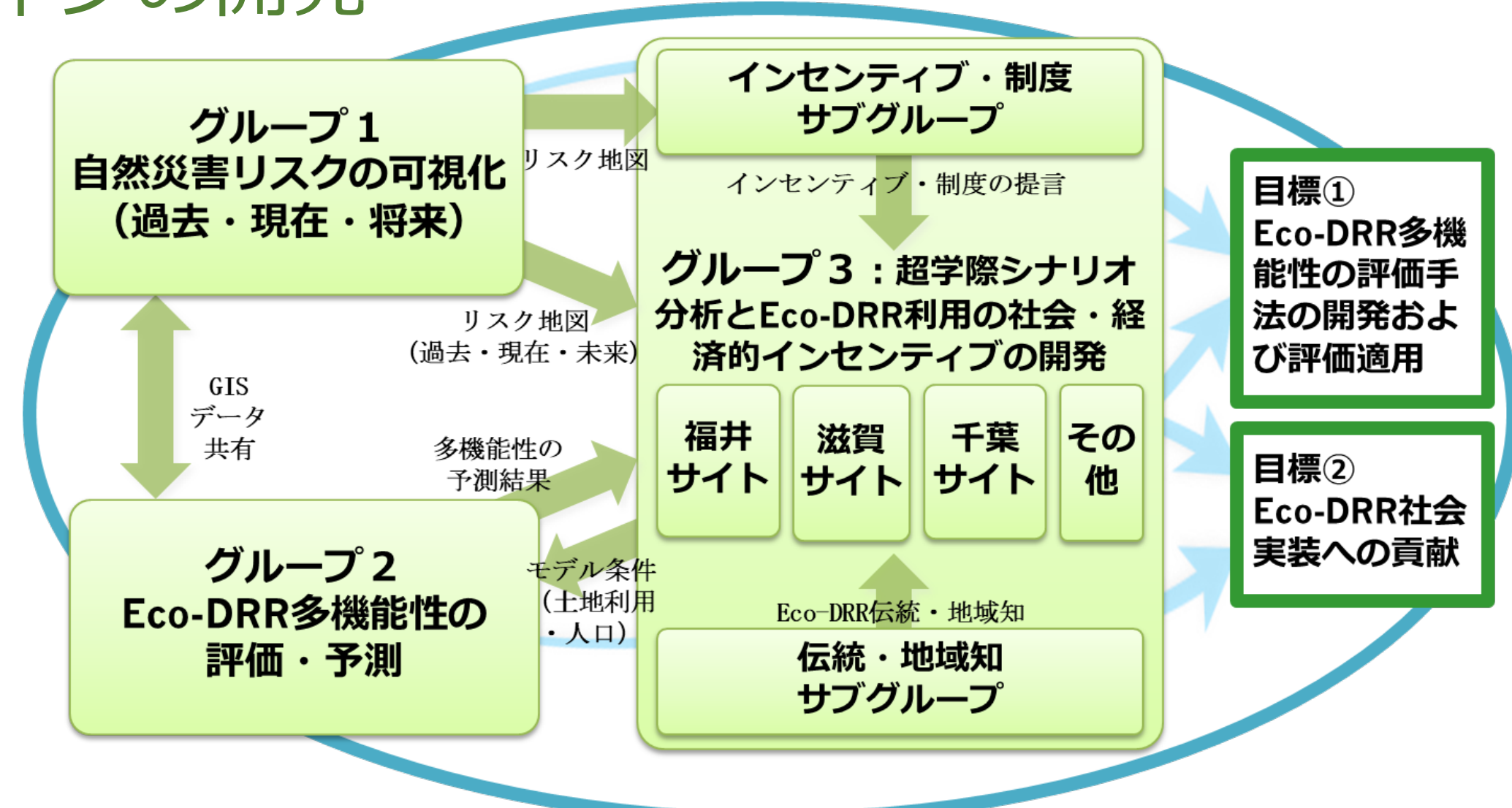
洪水・土砂災害・高潮などの自然災害は、気候変動にともない増加しつつあり、自然災害リスクへの適応が求められている。一方で、多くの地域社会で人口減少が進行しています。私たちは、生態系がもつ多様な機能を活用する防災減災の手法（Eco-DRR）に注目し、人口減少で土地利用の見直しが可能になる機会をとらえ、豊かな自然の恵みと防災減災が両立する地域社会の実現に向けて研究を実施する。

生態系を活用した防災減災（Eco-DRR）では、ハザードの高い場所での人間活動の曝露を小さくし、ハザードの低い場所で主な人間活動をおこなうことで、災害リスクを減らしつつ、生態系の豊かな恵みを利用できる。

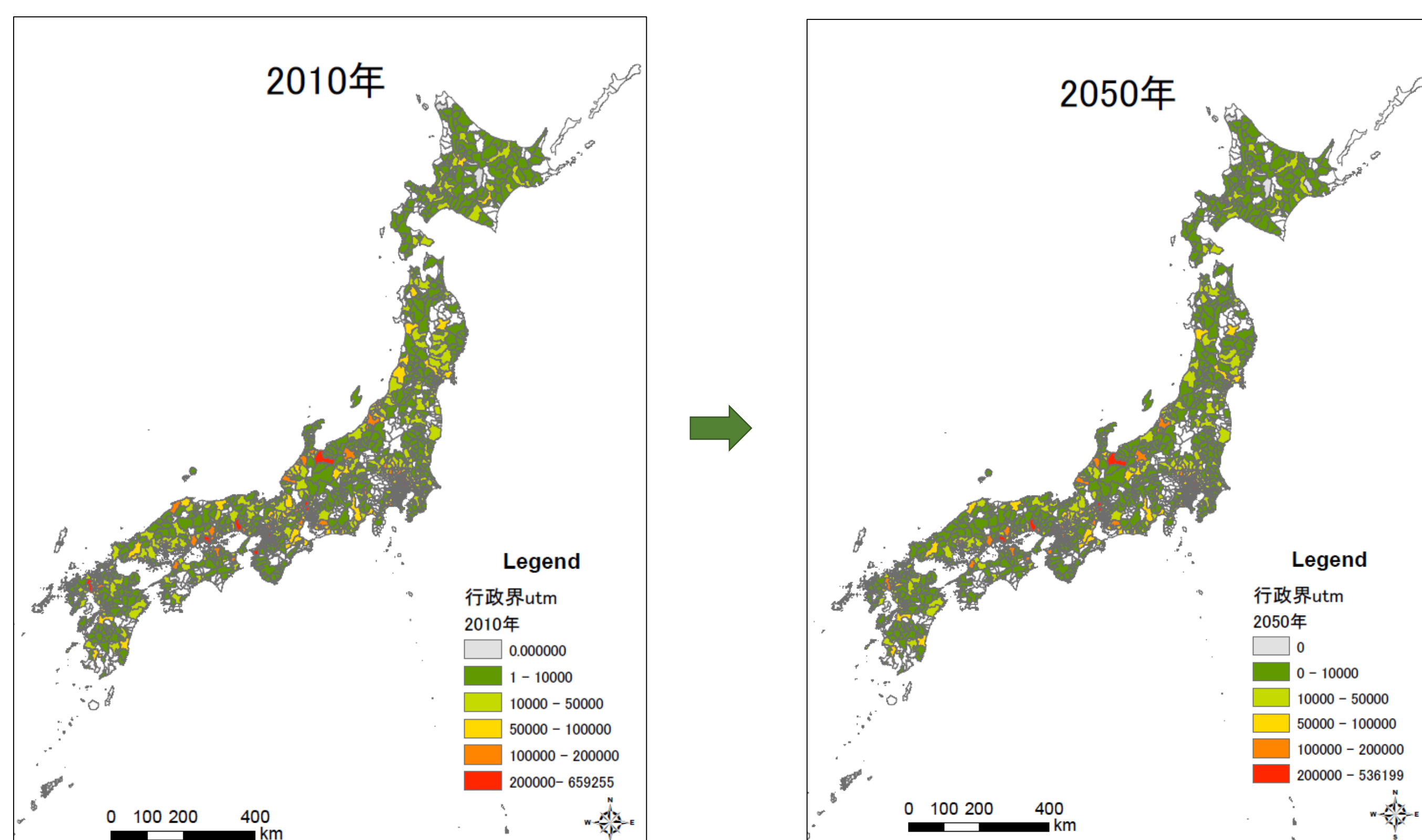
生態系を活用した防災減災（Eco-DRR）

リスク = ハザード × 曝露 × 脆弱性
(e.g. 洪水) (土地利用)(e.g. 建物の構造)

- ### Eco-DRR (Ecosystem-based Disaster Risk Reduction)プロジェクトの研究内容
- (1) 自然災害リスクの可視化(過去・現在・将来)
 - (2) Eco-DRR多機能性の評価・予測
 - (3) 超学際的シナリオ分析とEco-DRR利用の社会・経済的インセンティブの開発



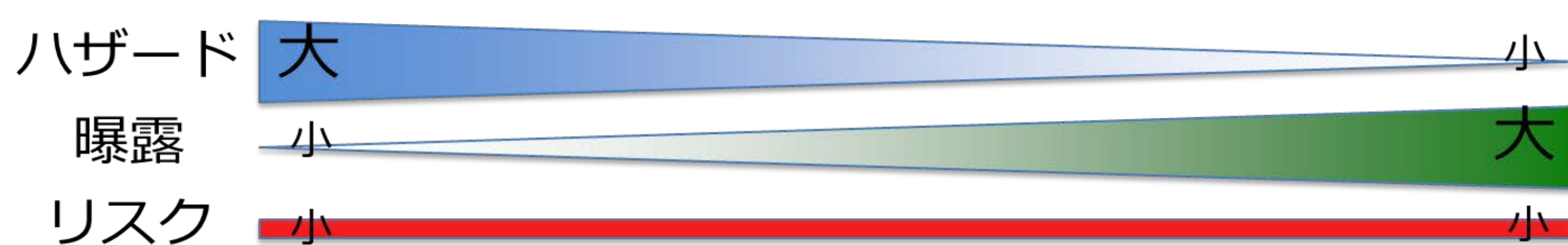
G1：全国自然災害被災者人口の推移



予想される浸水区域内(※1)の人口(※2)集計結果

※1 水防法に基づく浸水想定区域

※2 2010年は総務省統計局国勢調査の人口値、2050年は国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口



G2：土地利用変化のシミュレーション

